



第1回みなみっこ集会

白水台地の陽光「さん」

みなみっこ集会(全校人権集会)を6月27日(木)にオープンスクールで行い、15名程度の保護者や地域の方に参観していただきました。この集会では、それぞれの学年が、これまでの人権学習をとおして学んだことを、自分たちの生活と重ねながら発表します。さらに、その発表に対して、聞いていた他の学年からのお返しもありましたので、深い学びになりました。1年生は、かなしいかおにならないように「にこにこえがおだいさくせんをがんばる。」「だいじょうぶ、どうしたの、と声をかける。」「ちくちくことばは言いません。」「2年生は、とくちゃんのなかまたちを勉強して、「からだが大い人を前はこわがっていたけど、自分より大きい人でも、自分がいやだったらちゃんと言いたいです。」「いじわるをしている人には、だめだよと言います。」「3年生は、もやもや書きというお勉強で、「なかよしだからこそ、本当のことを伝えることが大切だと知りました。」「心のもやもやをためこまずに、話してすっきりさせていきます。」「このような発表をしました。4年生は、みんなで考えたことという教材から、相手に伝える勇気と大切さを学び、「友だちの本当の気持ちが知れてよかったです。」「友だちといっしょにがんばっていきたいです。」「5年生は、なごごて腹んたつという教材をもとに学習し、「伝えなければいけないことはきちんと伝えます。」「自分たちのくらしを見つめ、いじめや差別に気づき、それをしない、させない学級にしていきます。」「6年生では、本当の仲間について考えて、「本当の仲間とつくりもの仲間があると考えました。」「本当に困っている時に、みんなが手を差しのべられるかわかりません。」「相手のことを考えたり、状況をみて話したりする力は必要だと思います。6年生は、みんなが1つに力を合わせるとすごいパワーを出すクラスです。私は卒業するとき、楽しく終わりたいです。そのために、今変わりたいです。」「このような発表がありました。どの学年の内容も、また、その発表に対するお返しも、深く考えたものでした。これからの学校生活で生かしていけるようにしていきます。



道徳の授業でゲストティーチャー

2年生の道徳「まつりにこめられたおもち」の中で、地域で行われている「お法使祭」について、馬場楠の上村隆一さんから話してもらいました。子どもたちは、上村さんの「皆さんは、地域であっているお祭りでは、どんな祭を知っていますか。」「祭は、何のためにあるのでしょうか。」「お法使祭は どうして400年間も続いていると思いますか。」の問いに対して、一生懸命考えて答えていました。お話の中で、「祭は、人々の幸せを祈る、健康を祈る、作物の豊作を祈るためのものです。そして、祭は一人ではできないです。みんなが力を合わせて仲間になるために行います。みなさんの学校生活の中でも、運動会などありますが、みんなで力を合わせてがんばってください。」このようなことを話されました。上村さんは、お法使祭について、色々研究もされてもいますが、馬場楠に、お法使祭がやって来た時には、実際に獅子舞を踊られるということです。今回、その獅子頭を持って来られていて、子どもたちにその重さを体感させられました。子どもたちは、見るのとは違い、実際に持ってみて、その重さにびっくりしていました。ゲストティーチャーに来てもらったことにより、子どもたちの心に響く、深い道徳の学習になりました。



